

ミズノ・ソイルプロデュース

日持ちの長いユリを無農薬栽培

年に3作できる圃場を年1作にして地力を高め、水を改善して日持ちの長いユリを無農薬栽培

農園紹介

愛知県愛西市で、ユリ(オリエンタルハイブリッド)を生産している。ハウス総面積は約5,500m²、年間に栽培する品種はカサブランカをはじめ、赤、ピンク、オレンジ色花など25~30にのぼる。愛西市は愛知県西部の濃尾平野で木曾川下流東側に位置する。湿田地帯であることを活かしレンコンの栽培が盛んに行なわれ、日本の三大生産地のひとつとなっている。

レンコンからユリ栽培へ

父親から農業を引き継ぎレンコンの栽培を行なうようになった当初は腐敗病に苦しみました。しかし、途中から土造りの指導を受けながら、米酢、ホワイトリカー、黒砂糖、光合成細菌でつくったオリジナルの殺菌剤など、化学農薬を使わない栽培に取り組みました。

1995年に、レンコンからユリに切り替えました。植物栽培・土づくりには水は不可欠ですが、水がよくなければ、植物は元気に育つことはできません。ユリ栽培に切り替えたころから水の重要性を感じ、三重県津市にある、MPSに参加している赤塚植物園グループが開発した水を改質する技術「FFCテクノロジー」を応用した「FFC資材」(土壌改質活性培土のFFCエースや飲料水のFFCパイロゲン)を採用し、以来同社の資材を利用しています。

花卉産業総合認証プログラムMPSにも参加し、2009年2月から連続してAランクを取得しています。また化学肥料や化学農薬の使用を避け、環境への負荷をできる限り低減した栽培管理方法で生産された花として、フラワーオークションジャパンが認定する国内産有機栽培フラワー「オーガニックコレクション」にユリで初めて認定を受けています。



無農薬栽培の生命力あふれるユリ

花は切られても呼吸している。薬剤を大量に使うて育てた花は切花でも空気中に薄い濃度の農薬を出していると思う。しかし、当園のユリは無農薬栽培を徹底し化学農薬を使わないため、そういうことが一切ない。

飾る人の心も体も癒す花こそ、本ものの花であると考え、どのような人でも安心して飾ることができるユリの栽培を実践している。化学物質過敏症の人から、当園のユリなら飾ることができるのお話をいただいたこともある。

このように育てたユリは、発色がよく、香りもまろやかになった。花の日持ちも1週間くらいながくなった。また、最後の小さな蕾までしっかり咲くようになり、葉の色もよく茎も適度な硬さとしなりを兼ね備えている。

土づくりへのこだわり



土壌を水浸けにし土壌の微生物バランスを整える

一生のうち、自分で農業ができるのはせいぜい30年、年1回の作物なら30回しかできない。そのなかでどれだけのことができるのかと考えた。一方私自身父親から土地を受け継いだように、子孫が受け継いでくれるかもしれない。そのときに、地力をなくして疲弊きつた農地を渡すのは忍びない。孫末代まで安定した農業ができることが、本当の安定した農業であると思う。